武　一　中

令和４年５月１０日
武蔵野市立第一中学校
学校だよりＲ４－３号

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

自分で決める力

校　長　　中嶋　建一郎

中学生の皆さんには、一つの目標として中学３年間を通して「自分の進路を自分で決める力」を付けてほしいと思っています。もちろん各家庭には様々な考えや事情がありますから、皆さんの思いや考えがそのまま通らないこともあるかもしれません。でも、「自分ではこう考えていて、こういう進路に進みたい」と言えるようになってほしいのです。

そのためにも、「自分で決める」機会を意識して増やしてほしいと思います。日常のどんなことでも良いので、「自分で決めて」みましょう。例えば、レストランで何を食べるのかを決める時。家族に決めてもらうのではなく自分で選ぶ。たとえ同じメニューでも、「同じでいい」ではなく、「同じのがいい」と自分で考えて選ぶのです。

「決める」ためには、様々な条件や周りの様子を考えます。例えば、今日、傘を持っていくかどうか。私の場合、カバンが少し重くなるので、なるべく持っていきたくありません。天気予報を見て、家族にも意見を聞いて、外に出て空を見て、風や空気の感じも確認します。色々考えて決めますが、時には、天気予報もはずれ、濡れて帰ることもあります。

人の脳は、基本的に楽をしようとします。あまり考えずに過ごそうとします。省エネ設計なのです。だから、いつも通りが好きです。自動化、ルーティーン。先ほどの傘の例だと、何も考えない方法として、毎日折り畳み傘をカバンに入れておく方法があります。何から何まで「自分で決める」となると疲れてしまうので、考えないことがあっても良いと思います。

ある研究によると、大学生に「自分で決めたいこと」と「自分で決めたくないこと」を書き出してもらうと、アメリカ人は「決めたいこと」が多く、日本人は「決めたくないこと」が多いそうです。日本人の気質として、自分で決めることが好きではないし、苦手なのかもしれません。

今回は、自分のことを決める内容を中心に話しましたが、皆で決めることも基本は一緒です。いろいろな考えがある中で、折り合いをつけて決めます。自分の考えが通らないこともあるかもしれません。でも、多数決やくじ引き等、決め方を確認したらそれに従うのです。

「決める」ことは、中学を卒業して、大人になってからもあります。人生の大きな決断には、仕事を決める「就職」や、人生のパートナーを決める「結婚」もあります。ですから、「決める力」は常に磨いていく必要があります。今日の話をきっかけに「自分で決める」ことを意識してくれたらうれしいです。

１０日（火）朝礼より

開校記念日にあたって

今日 5 月 10 日は、第一中学校の開校記念日です。

第一中学校は、昭和 22（1947）年 4 月、新しい学校制度の実施に伴い、新制中学校として、また、武蔵野町内唯一の中学校として「武蔵野町立武蔵野第一中学校」の名で設立しました。（第二中学校の設立は 2 年後になります。）そして、同じ年の 5 月 10 日に開校式が挙行されました。開校時は校舎もなく、武蔵野第五小学校内の旧青年学校の教室を職員室として、教室は旧兵舎のバラック 3 教室と小学校から借りた 2 教室の計 5 教室で、第一学年 7 学級（内女子 2 学級は都立武蔵高等学校に委託）、第二学年 3 学級、第三学年 1 学級の 11 学級が二部制の授業を行っていました。同じ年の 11 月 3 日に武蔵野町市制施行（都内で八王子市、立川市に次いで、3 番目の市として）により「武蔵野市立武蔵野第一中学校」となりました。昭和 23（1948）年からは、現在の地に、焼け残った工場の古材等でようやく校舎を建て、戦争の爆撃によってできていた大きな穴を生徒たちが力を合わせて整地して校庭にしました。

初年度の生徒数は 500 名ほどでしたが、以来、多くの卒業生を輩出し、この春までの卒業生総数は、15,573 人になりました。

現在の校舎は昭和 38（1963）年 8 月に建てられ、昭和 57（1982）年 11 月には屋上プール付の体育館が、昭和 63（1988）年 11 月には音楽ホールが完成し、ほぼ現在の姿となりました。時代が変わり、校舎や校庭、体育館やプールも変わりましたが、それぞれが、中学生という多感な時期を過ごしていったのは、いつの時代も同じです。

第一中学校の校章は、むらさき草の花と葉をデザインしたものですが、当時の生徒が考え、昭和 22（1947）年 6 月に決定しました。むらさき（紫）は、我が国の山野に自生する多年草の植物で、紫色の染料の原料として使われていました。江戸時代には「江戸紫」の名を誇り、武蔵野一帯にみられたようです。根は紫色ですが、上部に 4～5 つの白い花が咲きます（校長室の前に写真が飾られています）。一中の校章には、このむらさき草の花のように、生徒が清く香り高く成長するようにとの願いが込められています。校旗は昭和 23（1948）年 9 月に制定されましたが、第 70 回卒業式を機に新調しました。

また、校歌は、昭和 29（1952）年 1 月に勝 承夫さんが作詞し、岡本敏明さんが作曲しました。一中生にとって、この一中が「希望の泉」「理想の学舎」「文化の故郷」「楽しき母校」になってほしいという思いが校歌に込められています。また、校歌の 3 番に「真澄の空に富士が根を」とありますが、今でも天気の良い日には東校舎 4 階から富士山を望むことができます。

先輩たちが理想を追求しながら築き上げてきた伝統をしっかり受け継ぎ、これから入学してくる生徒たちに繋いでいく、駅伝でいえば、襷を繋ぐように引き継いでいくことが大切です。先輩の作り上げた伝統や校風を受け継ぎ、みんなで協力し、さらにより良い学校を築いていってほしいと思います。また、今まで学校の発展に尽くしてくれた方々や地域の方々の願いを知り、また感謝しながら、学校の一員、地域の一員としての自覚を高め、限りない愛校心を高揚してほしいと思います。

第一中学校は、平成 29 年度に「開校 70 周年記念式典」が行われました。これからは、開校 80 周年に向けて、これまでの良き伝統のうえに、新たな 1 ページを築き上げていくことになります。今日の開校記念日を機に、これまでの本校の歴史の重みを感じ取るとともに、次の飛躍への決意を新たにしてほしいと願っています。